

ポジティブな形容詞の割合から考える過去から現代への言葉の変遷

国語班：原田隼輔 福本歩夢 伊東悠衣

要約

本研究の目的は、現代語と古語との傾向の違いから、昔から現代にかけて起こった変化を明らかにすることである。調査によって、古語のほうがポジティブな形容詞の割合が高く、現代語では低いということが分かった。従って本研究により、現代語は古語に比べてポジティブな言葉が少なく認知のネガティブな方向への偏りが大きくなった可能性があると考えられる。

Abstract

The purpose of this study is to clarify the changes that have occurred in the present age due to the difference in the tendency between modern and ancient languages.

Research has shown that ancient languages have a higher percentage of positive adjectives and modern languages have a lower percentage.

Therefore, in this study, it is considered that modern languages have fewer positive words than ancient languages, and the bias toward negative cognition has increased.

1. はじめに

この研究テーマに至った経緯について説明する。我々の最初のテーマは誉め言葉についての研究であったが、その際、研究手法として行っていたのが、誉め言葉を広辞苑からすべて抜き出すという作業である。この作業における議論を通じて、形容詞中のポジティブな単語の割合が現代語と古語では異なるのではないかと考え始めた。そこで、研究テーマを現在の通りに変更した。

2. 研究手法

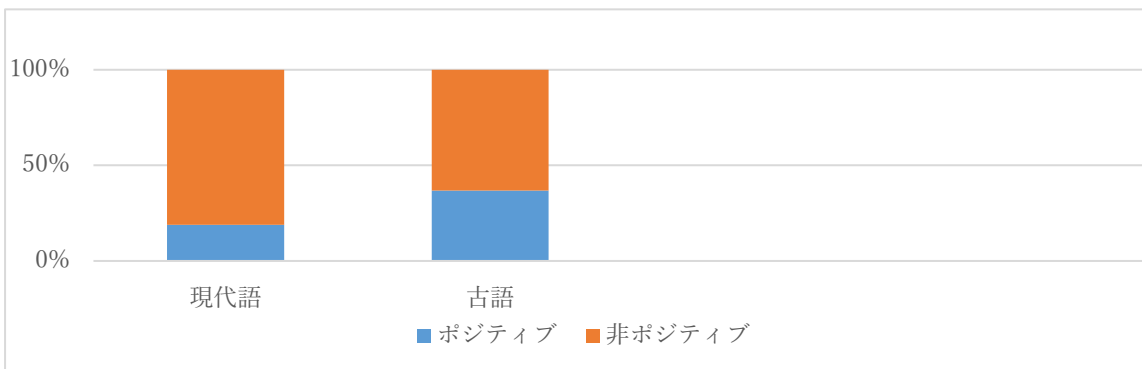
現代語は岩波書店の広辞苑、古語は三省堂の全訳読解古語辞典から、形容詞をすべて抜き出してポジティブな言葉の割合を調査し、そこから考察した。また、この研究においてポジティブとは、積極的、肯定的という意味で用いており、一つでもそのような意味があればポジティブな語としてカウントした。その例としては「美しい」、そうでないものとしては中立的な意味の「白い」、ネガティブな意味の「汚い」などがある。なぜ形容詞なのかというと、二つ理由がある。ひとつは、褒め言葉の研究の際に褒め言葉には形容詞が多いと考えたからで、もう一つは「形容」という言葉の意味には、「事物のかたち、有様をほかの言葉や

たとえを使って言い表すこと。修飾すること。」(広辞苑第七版 岩波書店より引用) という意味があるので、形容詞は名詞を修飾し、文の意味に大きく関わると考えられるからである。これらの理由から形容詞は適切な研究材料だと考えた。一方、形容動詞では、語幹が名詞として使えるので辞書に載っていないため、研究材料として不適切だと考えた。

3. 結果

現代語では形容詞の総数は 894 個、それに対して、ポジティブな形容詞は 169 個で、その割合は 18.9 パーセントであり、古語では形容詞の総数 646 個に対してポジティブな形容詞は 238 個で、その割合は 36.9 パーセントになった。

	現代語	古語
形容詞総数 (個)	894	645
ポジティブ (個)	169	238
割合 (%)	18.9	36.9



4. 考察

我々の研究対象である言葉、語彙は我々の認知を表している。例えば rice という言葉は、日本語ではコメや稲、白米、ごはんといった様々な言葉で表されるが、英語では rice という 1 単語で表現される。これは、日本と英語圏の国との rice に対する認知の違いを表している。日本は稲作が盛んであるので、言葉が分節されていき、様々な状態に対応する言葉を作っていったということだ。また、身近な例だと、「エモい」がある。「エモい」という言葉の表すものは、ほかの言葉での表現が難しい、きれいな景色、青春、音楽といったことである。エモい景色を見たとき、以前では言葉でうまく説明できなかったことが、その言葉を知ったことによって見た瞬間にエモいという言葉が頭に浮かぶ。だから、言葉の違いは、その認知の違いだといえる。そしてその言葉のネガティブなものの割合が増えたということは、認知がネガティブになったと言い換えられると考える。

5. 結論

考察を今回の結果に当てはめて考えると、過去から現在に向けて、認知を変えるような社会的

変化が起こったといえる。これは瞬発的に変化したとは限らない。今回はその変化の内容まで踏み込むことはしなかったが、結果から、語彙の変化としてポジティブな意味の単語が少なくなったということになり、認知もネガティブになったと考えることができる。現代語にポジティブな単語の量が少なくなったということは、日本人の認知のネガティブな方向への偏りが大きくなったということだと考えられる。

6. 参考文献

広辞苑第五、六、七版

小学館全訳読解古語辞典第五版